九州大学学術情報リポジトリ
Kyushu University Institutional Repository

Job control, work-family balance and nurses' intention to leave their profession and organization : A comparative cross-sectional survey

山口, 善子

https://doi.org/10.15017/1789434

出版情報：九州大学, 2016, 博士（看護学）, 課程博士
バージョン：
権利関係：全文ファイル公表済

氏　　名：　山口　善子

論 文 名：Job control, work-family balance and nurses' intention to leave their profession and organization: A comparative cross-sectional survey
（仕事コントロール、ワーク・ファミリー・バランスと看護師の看護師離職意思・職場離職意思：比較横断研究）

区　　分：甲

論　文　内　容　の　要　旨

看護師の不足は世界的に問題となっているが、日本では看護師の偏在も問題となっており、訪問看護事業所と介護系施設は、病院よりも看護師の不足が深刻である。先行研究では、看護師の仕事コントロール、家族要因、ワーク・ファミリー・コンフリクトは離職意思に影響すると報告されているが、これらの要因の程度と離職意思に及ぼす影響の大きさは、病院、訪問、施設の看護師で異なると思われた。

本研究では、看護師の仕事コントロール、家族要因、ワーク・ファミリー・コンフリクトの程度と、各要因が離職意思に及ぼす影響の大きさについて、病院、訪問、施設を比較し、就業場所による相違について検証することを目的とした。

本研究は質問紙調査票を用いた横断研究である。本研究への参加を承諾した九州の病院 9 カ所、訪問看護事業所 86 カ所、介護老人保健施設・介護老人福祉施設 107 カ所に勤務する看護師を対象とし、仕事コントロール、家族要因、ワーク・ファミリー・コンフリクト、離職場意思、看護師離職意思を測定した。本研究では回答に不備の無い 1461 名を分析対象とした（回収率：81.7%）。

結果、仕事コントロール、家族要因、ワーク・ファミリー・コンフリクトの程度と、各要因が離職意思に及ぼす影響の大きさは、病院看護師、訪問看護師、施設看護師で異なっていた。病院看護師の離職意思にはワーク・ファミリー・コンフリクトが、訪問看護師の離職意思には家族要因が、施設看護師の離職意思には仕事コントロールが最も影響していた。

看護師の離職防止策は、各就業場所の看護師の特徴を踏まえて策定するべきである。病院では、看護師のワーク・ファミリー・コンフリクトを軽減することが離職防止に繋がる。訪問看護事業所では、看護師が家族役割を遂行出来るよう支援することが離職防止に繋がる。施設では、看護師の仕事コントロール獲得を支援することが離職防止に繋がる。